

Jトラスト株式会社

第41回定時株主総会 質疑応答要旨

当社株主総会における株主様からの主なご質問とご回答の要旨です。

Q	コンプライアンス態勢について
A	従業員のみなならず役員に対しても関連する規程の周知やコンプライアンス研修を実施しております。引き続きコンプライアンスの徹底を図ってまいります。
Q	韓国事業を行う上での政権交代などのカントリーリスクについて
A	韓国に限らず海外事業を展開する上で、カントリーリスク対策は必須と考えており、リスクに対応した資源配分を検討しております。韓国に関してもカントリーリスクはあると考えておりますが、今のところ事業自体に支障はきたしていません。
Q	最終利益2期連続、経常利益3期連続の赤字に対する取締役の責任について
A	投資先の株価下落が当社連結業績に影響した結果、前期は赤字となりました。ただ、当該会社の業績は順調で、事業のファンダメンタルは良いと認識しております。取締役の責任につきましては、今後、業績回復を図ることで責任を果たしていく所存です。
Q	新任取締役の役割と担当について
A	金融機関における豊富な知識・経験を生かし、財務部門のトップとしてグループ全体の財務戦略、資金調達等を担当していきます。
Q	韓国貯蓄銀行の日本への進出について
A	韓国の法律上、支店を出すなどで海外へ進出することは、現時点では難しいと認識しておりますが、韓国事業で培ったノウハウを各国のグループ企業で活かしていきたいと考えております。
Q	風評等への対策について
A	取材等に対して真摯に対応するとともに、当社に対する誤った記事・情報については名誉毀損の訴えを含め、毅然とした態度で対応していきたいと考えております。
Q	整理回収機構保有株式について
A	当社としては2017年3月期末時点で同社は当社の株主ではなくなると認識しております。

Q	社外取締役の役割について
A	<p>各人の弁護士としての専門的知識、警察庁や金融機関での豊富なご経験・ご見識から取締役会において事業内容の報告や議案に対して積極的に質問・発言をいただき、事業遂行上の問題点などに対し厳しく指摘をいただいております。</p> <p>客観的な立場での提言により、取締役会の運営に有用な助言をいただいているものと考えております。</p>

Q	IFRS 適用について
A	2017年5月12日に開示しておりますが、当進行年度の第1四半期である2017年6月期より適用することとしております。

Q	IFRS 適用を踏まえた今後のIRの対応について
A	<p>ライツ・オフリング実施以降、国内市場から海外に軸足を移しながら金融事業を構築しております。2017年3月期業績に関しては投資先の株価下落の影響等もありましたが、当進行期はIFRS適用によりのれん償却などの計上がなくなることで、本業による成果で株主様にお答えしていく所存でございます。</p> <p>また、IFRS初適用となる2018年3月期第1四半期決算の発表以降は、より一層IRの強化を致します。海外ロードショーや日経IRフェアへの参加も計画しており、出来るIRは全てやるという方針で邁進していく所存です。</p>

以上